

札幌の知人の紹介で30年近く毎年通い続けてきたニセコである。東京で会えなくても、ニセコでは会える仲間がいる、そして時とともに良くも悪くも変化し続けてきた人生を確認できる。冬は雪、夏は山や海と戯れながら、近くの多彩な温泉に通う。現地で知り合った暮らしの達人が作った暖かく心地よい木造のペンションと、趣味のよい内装や小物群に囲まれ、これもとびつきり美味な食と水と酒に酔う。毎回千歳から支笏湖経由のルートを通るたびに、この世界に近づく高揚感に包まれるのだ。

春まで数メートルを超える積雪は、時に抜けるような日差しをまぶしく反射し、時に激しくホワイトアウトする地吹雪に晒される。その光や色の変化に富んだ自然の営みが、我々の引きずる東京の都市的しがらみのすべてをきれいさっぱり忘れさせてくれる。近く



写真85-1 朝の木漏れ日



写真85-2 テラスから望む羊蹄山



写真85-3 朝食前



写真85-4 夜の一時

に聳える羊蹄山*1の美しい姿に自分の位置を確認しながら、雲の流れに直近の天気*2を占う。

そのような体験にもまして、北の雪里を暮らしの場を選んで友が自らの手でつくり続けてきた住まいの心地よさと、自立したライフスタイルの有り様に、知り合った時から心酔した。でなければ、30年も通うはずがない。時には零下15℃を下ることもある真冬の極寒の中でさえ快適な住環境を得る術を彼らは体験的に知っている。自然と暮らし、遊ぶ術を身につけている。この「ハイクロウツ*2(HYKROTS)」という名のロッジは、ここを営む中村夫妻のかつての仲間の頭文字をとったものだ。血縁である頼家の末裔がやはりロッジを営みながら母兄弟と逞しく暮らすその姿を横目に、ただただ魅せられてしまったのだ。

こうして、ニセコでの時間がとても濃密な体験として体と心に残る。組織的に観光化され、マニュアル化されたりゾートとは対極にある、友の営みに接することのできる幸せがここニセコにはある。

*1 羊蹄山、標高1,898mの成層火山。日本百名山の一つで、蝦夷富士とも称される

*2 Lodge HYKROTS: 011-858-2041